

パート(1)

読書案内「冒険の書」AI時代のアンラズング 著者 孫泰蔵

題名を見ても何の本かイメージが付きません。AI時代…と副題に書き添えてあるので、今のAIのことを書いた本かなと手に取ってみましたのですが、読んで見るとそうではないのです。

そのことを「はじめに」の文から紹介します。

はじめに

僕はこれまで起業家としてたくさん新しいことにチャレンジしてきました。そしてたくさん新しいことにチャレンジしてきました。そして、たくさん失敗してきました。……それでも新しいことを思いついてしまうと、どうしてもやらざるにはいられない自分がいます。こりかに何度も何度も失敗を繰り返しているうちに、たまたま成功することがあり、それを人は「すごい才能だ」「とても優秀だ」と評価してくれます。それでよく「成功の秘訣は？」と聞かれるのですが「それは僕が教えてほしいです。」としか言えません。「成功するにはこういった能力が必要か」と聞かれても、どうにも答えられないのです。

成功するために必要な「能力」ってなんなのだろう？ そもそも「能力」っていったいなんなんだ。

学校教育についても同様です。僕は世界中の人工知能(AI)を開発している会社にたくさん関わっていますが、人工知能のパワー、その発達のスピードには目をみはるばかりです。その一方で、「このままだと、なんかマズインじゃないか？」と、不安も感じます。最先端の人工知能にふればふれるほど、学校で行われている教育の内容がその意味をどんどん失いつつあると感じるからです。(それは私も同感です)

学んで本来はすごく楽しいことのはずなのに、どうして勉強はつまらないのなる？ 人生は本来すごくワクワクするもののはずなのに、どうしていつも不安を感じながら生きていかなければならないのなる？

そんな疑問で頭がいっぱいになりました。そこで、この疑問の答えを求めて行くあてもなく探究の旅に出ました。旅に出てみてわかったことは、僕の前にもたくさん人の旅人たちが刺激に満ちた旅をしていたことです。時に彼らの旅を追体験してみたり、ちょっと寄り道してみたりして、僕自身その旅を大いに楽しみました。

この本に書かれているのは、その旅路の記録です。結論よりも、僕がどんな問いを立てたのか、どんな探究をしたのかというプロセスそのものを詳しく書くことを意識しました。……くという事で、筆者と一緒に探究の旅をするという形で旅をするかたちで、この本があります。これからしばらくはこの「冒険の書」のパート1、

